明治四十一年十一月二十二日第三種郵便物認可 （日刊） 日曜及祭日の翌日休刊 明治四十二年三月廿一日 （日曜日） 第六十三號 （一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●漁業税法施行細則

第一條　税法第二條第三項に依りて税率の減少を得べき者は未だ何人も漁業法第二條に規定する漁業を營む事なく水面なる事を證明し免許出願官廳を經由して度支部大臣に請願す可し

第二條　税法第二條第四項第三號に依りて漁業税の免除を得べき者は休業の始期及終期を記載する申告書を休業する時に度支部大臣に提出す可し

第三條　税法第五條の申告書は漁場を所管する財務署に提出すべし

第四條　税法第六條の申告書は代理人と連署して度支部大臣を經て免許狀を下付する官廳に提出す可し

第五條　税法第二條第二項但書に依る境遇に在るものには財務署長は漁業者前年中に在る採捕物價格を決定して毎年納期前に此を漁業者に通知す可し但し漁業者の申告する採捕物價格を是認する者には此れが通知を要せず

第六條　漁業税は別紙樣式の納付書に收入印紙を貼付して免許狀、許可狀、又は鑑札を交付する官廳に提出す可し

税法第三條第二項の納期に在りて納付する境遇に在るものは所管財務署長より送附する納入告知書に添付する納付書に收入印紙を貼付して當該財務署に提出すべし

第二項の境遇に在りては納付者は印紙の彩紋と納付書の紙面に遮渉して明白に信章を押捺す可し

第七條　漁業税を滯納する者に對しては財務官吏は國税徴收法によりて督促書を發するか又は滯納處分を爲す事を得

第八條　府尹又は郡守が申告漁業の鑑札を交附する時は此と同時に第六條の納附書を提出して遲滯なく所管財務署に送附すべし

附　則

本令は漁業税法施行の日より施行す

文苑

●一簑一笠　青楓

その九　さらばよ母國

暗き夜、三等客の我、獨りトボ〳〵と棧橋を辿りて、小蒸汽船にと乗り込ぬ、室のくらさよ、惡臭よ、童は泣き、女はわめく騷々しさよ、アー余は、到底も永くは堪へ得まじと思ひ惱みにき。

かくて、船は、本船にと漕ぎ着けぬ、甲板上、生白の髯ある男、電燈の下に、儼めしい顏して、檢査を始めぬ、遠く玄海灘の彼方より吹き來る風に、身をふるはして、余は、余が檢査の無事を祈りて待てり。

離よ、余は三等室にとたりぬ、ア、奈落の底よ、余や、如何なる夢ぞ結ばん。時正に九時四十五分、一千五百噸の對馬丸、こゝに余をのせ、怒濤を蹴つて立つぬ。

さらばよ、懐しい母國、われの幸福を得て、再び歸り來んときを待て、さらばよ。

その十

時は三月十三日の夜、余が乗れる對馬丸は、玄海灘の激浪を横ぎらんとす、余は頭痛を癒さんと、床を起つて甲板上に立てり、風は、際涯しなき海面を吹き荒びて、怒濤は、船舷を洗ひ、船は、上に下に、横に縦にと高く低く搖動きぬ。

オ、暗憺たる夜、彼方に星一つきらめく北極星にや。

想ひ起せば、余、政海の風潮に掉さして天下の權を握らんものをと、一度、青雲の志を懐いて、凡夫の學府の東都に思ひを燃す十年なりき、龍も時あつて天上すと聞く、余、未だ時來らざるか、將、余が船、順潮に乗らずして、却つて底知れぬ渦流に陷りしものか、余が萬事、常に失敗に嗟嘆し、失落に泣く、又十年。

ア、余が半在は、實にも暗闘の生涯なりしよ、失意の生涯なりしよな。

今、失意の一窮鼠、瘦軀を提げて、波荒き玄海灘を越えんとはするなり、ア、紀念すべき玄海灘の夜、余は永久に汝を記臆せん。

▲楷級　よし子

何處のお役所にも便所が斯く分たれてある。高等官のか一、判任官のか大小便所共二、傭人のが一と、餘りに馬鹿〳〵しい糞に二種ある譯ではあるまいにと或る高等官に聞いた處がソリヤ無論だが夫れは君か一を知つて二を知らぬのだ之れを一緒に爲て置くと便所を目安箱かなんぞの樣に思ふて他人の欠點若しくは惡口を書き付けて仕樣がないからだとの事だ、夫れにしても判任官のは何故二つあるのかと聞いたら人數が多いからだとのことだつた。

用便所判任だけに二つあり



佐倉宗吾

（卅四）　眞龍齋貞水講演

是から宗五郎、甚藏の兩人支度を致し、早足で來る。甚藏は年齡は老つて居ますけれども、未だ矍鑠な所がありますから、杖に縋つて一生懸命、將門山へ近接いて來るなど此處は天慶年間、平の將門、住居をなした將門山の古御所の蹟にて、ゴーン、〳〵、〳〵と鐘の音が、印旛沼に響き渡りまして物凄い、其内に、ウワイーツ、ワイ〳〵〳〵、ウワイーツと、何となく騷ぎ立てゝ居る、百姓の聲が、天に響いて勇ましく聞えます　宗「ア、大變な騷ぎに成つた」と、宗吾は一生懸命に來て見ると、彼方へ篝火を焚き、此方へ篝火を焚き、鎧竿を着いたした者、竹槍に油を塗つて火に翳してゐる者、いづれも眼色が變つて蠻髮さか立ち、惡人非道の御政道の下に働いたる、雪のやうな眞白な心を有つてゐる、眞面目な百姓が心から底から腹を立つたのだから、今や佐倉城中へ押寄せ、城代玄蕃を鏖殺しに致し、佐倉の城を乗取らん勢ひ　甲「イヤー、何人か來さつしたゞ……イヤー見ろ、何人か光來た」何人が來たんだ、能く〳〵見れは、篝火の光に三浦甚藏に木内宗五郎の二人、そこで一同の百姓衆が　甲「イヤー宗吾どんが御光來だよ、三浦樣が御光來だ」所へ村々の名主が駈付けて　名「イヤ宗五郎ざん、宜う來て下さいました……斯りや三浦樣でございますか」と名主が皆な宗吾に甚藏を取巻いて、宛で盲龜の浮木に取付くが如く、一同が涙を流さんばかりに　名「宗吾さん、れ前樣の顏見て、大きに一同が力が付きました」と云ふ、宗五郎思はずハラ〳〵ッと落涙致しこ　宗「さて御一同樣、私がこの將門山へ登りましたのは、外の譯ではござりませぬ、私は貴下方に御相談があつて來ました、一体桶枡の一件から、貴下方の御立腹は御道理の次第だが、あれは決して城代を初め、郡方諸役人の不届にあらずして、川喜多儀兵衛が一存を以て拵えた惡計でござる、故に貴下方が御憤りなされて、一度御城へ押寄せるやうな事に成りますと、殿樣江戸に在つて何事も御存知ないのに、御家に瑕瑾が付くやうな事に成りましては、御先代樣へ對しても恐れ多い事であるから、一度こゝの所は、村々へ人數御引揚げ下さいまし、以來は必ず、桶枡は御用ゐのないやう取計ひませう、又川喜多儀兵衛の惡計は、確かにそれと御沙汰あるやうに致し、成る可く貴下方に不都合のないやうに、上役人の方へ、私共生命に賭けても申し出まする、に依て、希か此宗五郎に免じて、此度は御引取りを願ひたい　甚「イヤ皆樣方、三浦甚藏が此老年で、杖に縋つて將門山まで來ましたのでございます、希か濟まないけれど、宗五郎さんの云はつしやる通り、怒りを鎮めて、一度は引揚げて下さいまし、御願ひでございます」涙を流して頼まれます　一同の者は、雪のやうな純白な心だから　名「イヤ皆の衆、いま宗吾ざんの云はつしやる事を聽かつしたか、此度と云ふ此度は、勘[illegible]だが、もう皆樣、併し[illegible]御二方に對して濟まねえから、一度は人數を引かねばなりますまい　宗「[illegible]して下さいまし」と、宗吾は茲に川[illegible]うではございますが[illegible]ながら大の虫を助けてくれには、小の虫を殺さなければ成らぬ、是非なくして此の如く致したのでございます、サア、ワイ〳〵と云つて騒いで居りました百姓衆は、今は水を掛けたが如く、寂然と成りました　名「それおや宗吾ざん、少し御待ち下さいまし」と、一同の名主連が、それ〳〵村の者を喚んで　名「イヤ、今木内宗五郎ざんが來さつして、斯う〳〵云はつしやるだ、御上の役人が惡くねえんだ、川喜多儀兵衛の一存で桶枡を拵ねたと云ふんだ、それだに依て、今こうやつて騒いでは、御先代樣へ對して氣の毒、また江戸の殿樣、なんにも御存知ねえだから、鎮まれえと云はれて見りや、御道理至極だから、兎に角山を降つて歸村をするだ（此言葉つゝく）



謹告

京城新報

商品取引所

京城は我保護政治の設置以來外形的設備の整へると共に諸般の事業起り、在留邦人の數も漸次增加するに從ひ商業上の取引も稍頻繁となり來れり、韓人商買の如きも亦店舖を改修し其規模を大にせり、今や京城は政治上の中心たるのみならず、商業上の中心たらんとす、從來は開港場たるの關係より仁川港が商業の中心たる觀ありしが、鐵道運輸の漸次頻繁となるに從ひ、地理的關係は商業の中心を仁川より京城に推移せしめんとする形勢となれり、趨勢斯の如くなれば仁川の商人にして京城に居を移し或は支店を設置するもの尠なからず、茲に於て京城は益々顧客の來集增加し自然に商業の中樞となり來れり、然れども京城は素と之れ商業の都に非ずして王城の都、兩班の都なりしを以て商都たるの機關備はらず、商店の如きも槪して小賣專門の風あり、爲に價格の如きも顧客の顏色に依りて之を二三にするの弊風あり、此儘に放任して推移するに於ては大規模の商業は發達せざるなり從て折角商業の中心たるべく進步しつゝある所を挫折するに至らん、眞の都會たる京城市を形造らんとすれば、唯政治上の中心たるのみにては不可なり、商業的設備を完全にして商業上の中心たらしめざる可らず而して此商業的設備中最も肝要なるものは商品取引所の設置なり、則ち定期賣買の機關なり、商品の公定定期賣買は商業市場の花なり、此花あるが爲に商品相場の標準を示すと共に商品の取引に活氣を添ふるなり、取引所なるものは相場標準の淵源たるに止らず、商品活動の淵源なり、之を各地の米穀及株式市場に見るも分明なり、定期賣買の盛なると共に現物亦盛に動くなり、要するに定期賣買は現物取引の先驅なり、故に取引所なるものは全体の商勢に活氣を添ゆる指導機關也、取引所は商勢を鼓舞すると共に其現物取引に一定の標準を與ふるものなり、故に何れの國と雖も商業の中心點には取引所若しくは之に類する取引機關の設置あらざるはなし、京城に於ても最早之を設置すべき時期は來れり、先づ最初に於ては最も盛に取引あるべき、米、大豆、金巾、綿糸、明太、此五品の定期賣買をなす、取引所を設置すべし、之れ當面に於ける商業機關の設備として恰當の事なりとす、人或は云ふ、取引所の設置は徒に破産者を起すのみならず、投機心を助長せしむるの弊害あらんと嗚呼之れ余りに丁寧流の婆心なり見よ世に何の絶体的善事がある亦何の絶体的惡事がある取引所設置の爲に少數の破産者を出せばとて決して之が爲に全体の商業機關を破壞すべしとも思はれず、また取引所の關係上投機心の助長せらるゝこともあらんが、宜しく之を善用して沈滯せる韓商界の企業心を化せしむることも難きにあらず、是を以て余輩は何れの點より觀察するも取引所の設置は今日の急務にして而かも結果に於て甚だ良好なるべきを信ず、當局者の賢明なる余輩の言を俟れずして已に取引機關の必要に氣附かれ居るなるべしと雖も、今や商界不振の極に達し各貨物不捌にして農商共に一漿の救濟を望むの時に當つて偶々大体の私見を述べて敢て識者の數を乞はんとす。

東京電報

▲横貫鐵道の日程

韓國横貫鐵道敷設に關する建議案明日衆議院の議事日程に上る

▲損害は直接に限る

日露戰役中個人損害救濟案委員會にて「直接の損害を蒙りたるもの」と修正して可決す

▲事務官郡長渡韓

島根縣事務官藤本充安同縣邇摩郡長片野淑八用有之韓國へ差遣せらる（十九日發）

外報一束

▲清國外債協議

スタンダード新聞巴里特信に依れば去土曜日英獨銀行家等會合し清國の外債につき討議したるも何等決定せる所なし是該資金使用監督の問題につき異論ある爲めなるが如し

▲獨逸の打消

紐育ヘラルド新聞は獨逸國が太平洋の一島を海軍根據地として取得せんとすと報ずるも右は虛報にして獨逸政府は公式に之を打消せりと

▲露土の合意成立

露西亞土耳古の兩國は勃牙利問題解決に關し意思の合致を見るに至れり之によつて土耳古は露國に支拂ふべき四十箇年賦の露土戰役賠償金を免除せらるゝこととなりたりと

▲米國の財政

大統領タフト氏の教書は國會に於て朗讀せられたり曰く本年の經費不足は一億弗に達すべし又曰く歲入の新財源は是非とも見出さゞるべからず尙以上の目的を達せんがために何等かの方法を以て行政整理を行ふべしと

▲露國黑海艦隊

は一部艦隊を波斯に派遣するの準備を整へ命令の下るを待ち居れりと

▲殺人團征伐

米國探偵ペトロシニ氏は紐育殺人團体の行爲に付探偵中シシリー島パレルモに於て銃殺されたる之が爲め米國官憲は全力を盡くして同團体を征伐するに決せりと

雜報

●東殖會社の事業

東洋拓殖株式會社は目下本年度の決算並に來年度の豫算編製に多忙を極めつゝあるが現在及び近き將來の事業の重なるものは左の如しと云ふ

▲驛屯土の整理　韓國政府より出資したる驛屯土は度支部より書面上の引繼ぎを了したるも現實の引繼に就ては目下林業部長以下三南地方に出張し實地踏査中にして場所を決定して引繼ぎを受けたる上は此れを整理して小作人との關係を定むる筈なるが小作契約は從來の慣習を重んじ弊害無き限りは變革せざる方針なりと

▲金融の開始　金融部事業の開始に關しては既に貸金規則を制定し同會社法の定むる處に從ひ監督官廳の認可を受くるの手續中なるも事業は既に開始せるものなれば此の規則制定前と雖も適當なる希望者には貸付をなすものにして既に貸付を請求せるものありと

▲水産事業　四月一日より實施せらるゝ韓國漁業法に從ひ適當なる漁場の權利を得て水産事業の經營を爲す方針にて調査を進行しつゝあれば來年度だけは先づ此の事業に着手すべし

▲殖林經營　部分林規則其の他山林經營に關する法令に從ひ殖林の經營を爲す件は農商工部と交涉して研究調査中なるも此は來年度に於ては着手するの運びに至らざるべしと

▲日本小作人の移住　日本小作人の移住に關しては前項の驛屯土整理の上耕地に餘裕あるを認むるか又は未墾地利用法の規定に從ひて相當なる未墾地の開墾に着手して確實なる方針立ちたる後に非ざれば輕卒に此れを募集するを得ず故に此の事業は會社事業の總べての調査を終りたる後に非ざれば着手せざるべしと（某當局者）

●東拓損失二百萬

韓國政府が其持株三百萬圓の拂込に驛屯土一萬町步を以てせしとは世人の知るところなるが右は驛田一段步を三十圓と定めたるに因るものにて實際に就て一段步の賣買評價を聞くに一万町步中最も良田と認むべきものにても十圓乃至廿圓にて其中五六圓の評價さへなきものも少からずと聞く果して然りとすれば平均價格は一反步約十圓に過ぎず左すれば東拓の爲には結局二百萬圓の損失は免れざるべしと云ふ亦右驛屯土中には元人民の所有地ありしを地方官吏の誅求を免るゝ爲に假りに驛屯田となし置きたるものも少からずと聞けば之等も受渡の際には悶着の種なるべしと云ふ

●東拓宴遊會披露

東洋拓殖株式會社は四月三日神武天皇祭の當日統監府高等官六等以上及び同會社に直接關係ある官吏、在京城韓國大官元老、韓國政府日韓人官吏にして奏任三等以上及び同會社に直接關係ある官吏並に奏任四等以上の將校同相當官名望ある紳士紳商豪農韓國駐箚軍司令部第六師團憲兵隊步兵第十二旅團及び特派騎兵隊にして京城龍山に在る將校同相當官及び各地駐屯の團体長以上、各道觀察使各理事廳理事官及び在京城諸外國紳士同會社の設立委員（各道に亘る）京城龍山、仁川、水原に居留せる日本紳士、紳商、商業會議所員居留民會議員各新聞記者及び通信員、其の他臨時京城に滯在せる韓國郡守財務監督局長及び日本官公吏、紳士等千餘名を招き同會社披露大宴遊會を催す會場は景福宮、慶會樓を借受くる筈にて午後一時半より開會一時四十分より餘興を演し午後三時三十分立食に移る豫定にて目下盛んに準備中なり

●清商と延取引

當地清商人等か自家の防衛上韓商との延取引を一切廢すべしとの決議を爲し一時之を斷行したるを以て韓商中には非常なる打擊を受け鍾路邊には多數の破産者を出さんとせしが素々清商が韓商に受の良きは延取引にありて今之を絶体に廢せば獨り韓商を苦しむるのみならず早晚自家商買の衰運を招くものに外ならざれば遉かに義理堅き清人中にも彼の決議を無視する譯にはゆかざるもの昨今にては信用ある韓商に對しては徐ろに元々通り延取引を以て商賣を開きつゝありと云ふ因に清商の延取引廢止決議に清國總領事が關係せるとの巷說あるも幷は全く誤聞なりと云ふ

●理事廳監獄復舊工事

旭町の出火に際し京城理事廳々舍の一たる監獄の一部は燒失の災厄に遭遇せしを以て不取敢應急工事を施し天幕張りにて囚徒を收容しつゝありたるが斯の如き設備にては到底多人數を收容する能はざるに依り統監府は追加豫算にて大藏省の所管とし目下議會の協贊を求めつゝある由なれば右豫算確定後は一時現在收容せる囚徒を他に移し現在の位置へ監獄廳舍を新設すべしと

●臨時列車の計畫

關釜聯絡船は風浪のため時々遲着の事あり旅客は爲めに管理局鐵道に接續乘車する能はずして空しく一日を釜山に送るの止むなきあり其不便少なからざるより鐵道院當局者は鐵道管理局員と妥協して夜行列車を隔日運轉する以前に於いて聯絡船の遲着したる際は大邱或は大田行北行列車を延長して夜行列車のなき日に限り南大門に向はしめんと目下計畫中なりと

●明石司令の韓國談

十五日より憲兵司令部に於て開催の憲兵隊長會議參列の爲め上京したる韓國駐箚軍憲兵司令官明石少將は韓國の近狀に就き左の如く語れり

韓國の暴徒は余が赴任當時より餘程下火となり今日の所にては其重なる出沒地方は全羅道京畿道及び黃海、江原兩道の一部にして其他は先づ平穩なり然れども是等の草賊が全く屏息する時期は未だ豫知すべからず故に暴徒討伐の爲め派遣されたる軍隊が撤退するや否やは余の知らざる所なり現在韓國に駐劄する憲兵は補助憲兵を合すれば七千に近し之を五百ヶ所に配置しあれば近きは四五里遠きは十里位を隔て又主要なる地方には軍隊の配置あるが故に今日の處にては大なる賊團はなし歸順制度は昨年十一月盡日限り廢止せられたるも已に歸順したる幾千の韓人は何れも正業に服し居れり我憲兵隊は是等歸順者の監視に怠りなく或は歸順者の家に行き又は一定の日を定めて憲兵隊に出頭せしむる等諸種の方法を以て監視せしめ居れるが其成績は概して良好なり今日の處にては歸順者の內より行衞不明となりたる者又は再び暴徒に拉去せられたる者全くなきにあらざるも其數は誠に九牛の一毛に過ぎず討伐方針に就ては余は別に懷柔策も又不懷柔策だも採らず我を害する者を擊ち我に抗する者を捕へ法に因て懲らしつゝあり又憲兵は旅行者郵便護衞討伐等なかなか多忙なれば增加する必要ありと云々

●郡主事の增員

從來郡に於ける主事は一名なりしも事務の激增は到底一名の主事にては執務に堪へざるに依り本年度より豫算を繰り合はして二人を置く事としたりと云ふ

●土地稅の改正

京城民團に於ては稅則改正の結果從來土地の賦課を脫したるものは四月一日より五ヶ年に遡り徵收せらるゝことに改正せらるゝに付屆漏れの者は此際速に屆出べしと

●養蠶講習所生徒募集

龍山なる大韓婦人會養蠶講習所に於ては多年蠶業の改良に從事し男女の生徒を養成し來りしが今や蠶業改良の機運は全道に彌漫したるを以て講習生希望者の數頗みに多きを加へたるに依り本年よりは男生の募集を廢し同會本來の目的にて女生のみを養生する由なるが本年度の講習生は四月十日入學試驗を施行し同十五日より十月十五日に至る六ケ月を講習期間となし在學中は生徒一人に對し食費として每月金六圓を支給すべしと云ふ

●大同江の航路

大同江は十日頃より解氷するに至り流氷も全く止み十三日鎭南浦、兼二浦間小蒸汽船試運轉を行ひ十四日より公衆乘客其他一般貨物の輸送を開始せり尙鎭南浦平壤間は未だ航路開通に至らざるも目下の狀況にては二十日頃より安全なるべしと云ふ

●ボリヤン氏北韓視察

官立漢城外國語學校敎師獨乙人ゼ、ボリヤン氏は來る二十七日當地出發平壤より雲山を經て新義州地方視察の途に上るべき旨通知ありたり

●忠淸北道の暴徒

去る十四日忠淸北道黃澗郡に一團の暴徒襲ひ來り民屋三十九戶を燒却したりとの報本日內部に到着したりと

●運賃割引に就て

鐵道運賃の割引に就き平壤商人間に苦情あるとは既記の如くなるが其の苦情を唱ふる平壤商人の內には當然得らるべき割引の特典を殊更ら得ざる樣になす者もありて割引に苦情をいふべき資格なき者もあるよし今その次第を聞くに鐵道側に於ては多額の貨物に對し特別の割引を行ひ以て一定の收入を得んとするものなるに從來平壤商人の內には假令へば四五百噸の貨物を千噸と詐稱し割引を求むる者あり而して斯くの如き商人には鐵道部にて附來割引を爲さざる方針なれば自然の結果として割引の特典に浴することを得ず普通賃金を收めしむるの止むを得ざるに到る次第なりと尙是までの例に由れば他の各驛に比し平壤驛は此類のこと最も多しと云へり

●善隣商業學校卒業式

明治町なる善隣商業學校にては三月廿四日午後二時より本科卒業生に對する卒業證書授與式を擧行すと

●四十七聯隊の軍旗祭

太田に駐在する第十二師團步兵第四十七聯隊には來廿九日第十二回の軍旗祭を擧行す

●經理部講習會

昨二十日は統監府經理部講習會日なるを以て午后一時より統監府樓上に定例會を開きたるが席上伊藤屬の「北韓地方視察談」田中屬の「特別會計に就きて」の講延ありて午後四時散會したりと

●漢城府民會の開會

漢城府民會は昨日開會せしが來會者三百人にして選擧區域の確定、規約の改正、乾元節の準備前會々務の報告等ありたりと

●吉原副總裁

西韓地方視察中なる吉原拓殖副總裁一行は本月廿五日頃歸任する筈なりと

●岡本警部の轉任　南部警察所詰岡本警部は一昨日付仁川警察署在勤を命ぜられ警視廳第一課詰井口警部其后任となりたり尙岡本警部は明後日出發赴任すべしと云ふ

●大邱金融組合狀況　同地金融組合は昨年十一月の設置に係り今日迄の貸出金六千八百圓にて昨今一日平均貸出し三百圓金利は信用貸六錢、不動產擔保五錢、動產四錢五厘にて其組合域は淸道、河陽、慶山郡等也

●本願寺交迭　昨春巳來韓國開敎總監部督勵長として龍山本願寺に駐在したる伊藤巽順師は今般交代して歸朝し後任は大沼善隆師なる由而して該總監部は來る四月年度換りより京部本願寺內に移さるゝ由なり

●敍任辭令（三月十九日付）

山林事務官從七位　加藤正美

任統監府鐵道管理局事務官

敍高等官六等二給俸下賜

本日の集會

●京城基督敎會　日の出町同敎會にては今日曜日午前九時半より日曜學校同十時半より禮拜說敎夜は七時半より傳道說敎あり叅聽隨意其演題左の如し

演題

一、枯骨の幻象（午前）　米澤牧師

一、靈性の完備（午後）　同牧師

●日本メソヂスト敎會　旭町二丁目名古屋城內なる同敎會にて本日朝夕兩回左の集會あり來聽を歡迎すと云ふ

朝八時半聖書研究山口照平氏、同十時半二大禮典、夕七時半感話並說敎木原牧師

●京城日本基督敎會　午前九時より日曜學校同十時より禮拜說敎[illegible]石原牧師午後七時半より新る生命大谷氏何れも叅聽隨意

●臨濟錄の提唱　大和町三丁目なる圓山太嶺師宅にて臨濟錄の提唱あり叅聽禪其隨意

公人私人

▲竹內喜一郎氏（大邱警察署警部）十九日入京不知火に投宿

▲飯田章氏（京畿警察部長警視）來京中の處十九日歸任

▲宮舘貞一氏（仁川警察署長警視）同上

近事片々

▲暑さ寒さも彼岸迄とは異なる哉流石の京城も今日此頃は何となく春色長閑になる

▲日本の中國九州邊では最早野邊は一面にげんげの花にて恰も絨氈を布けるが如し

▲見渡せば野の末山の端までも花なき里ぞなかりけるとの花の天地は今ぞ來たれり

▲世上の善男善女は此好季節を以て手を曳合ふて三十三の札所巡りをなすもの多し

▲彼岸の巡禮は行樂として最もよき思い付き弘法大師は何處迄も開けた坊主也けり

▲法華宗の御會式と云ひ耶蘇敎のエルサレム巡禮と云ひ皆夫々に行樂ある者也

▲六阿彌陀嫁の噂の捨て所を彼岸巡禮には爺や婆の嫁の噂は道すがら絶へざるべし

▲韓國にも三十三の札所樣のものを設けては如何是唯爺婆の迷信の具のみあらんや

▲老人小供の行樂地として適當の神社佛閣を設くるは風紀融和に大なる効顯あらん

▲完用內閣の動搖は一寸靜りたる模樣也

▲一進會の肉迫が少しく緩となりたる爲にや

▲其間に於て地盤を確むるの計畧はをさをさ怠りなしとは例の京童の冷笑的批評也

▲完用君趙重應君とは最早切ても切れぬ間柄而して閔丙奭君亦同樣なりとは事實乎

▲併し一進會も此儘では到底往生出來ざるべし何れ今一度死物狂ひの活動あらんか

▲實際に於て李完用君に對して必ず肉迫するに違いない例に依りて例の如くならん

▲一進會の侵迫に對して完用君は如何に取扱ふ可きか扱ひぶりも矢張例の如きにや

▲米國の歲入も不足を生ずることゝなれり而も一億弗の不足とは惜も大したもの也

▲何れの邦國も軍備の擴張の爲に財政困難となる流石の米國迄が不足を生じ來れり

▲獨逸は太平洋の一島に海軍根據地を得んとすの說を打消せり果して此事實なきや

▲ガーナー博士は猿語の研究に熱心して既七語を解せりと追て猿語字彙を作らんと

●卒業式と始業式

京城民團立高等女學校にては來る二十四日午後一時より同第二尋常高等小學校にては同二十五日午後一時より同甲子紀念幼稚園尋常高等小學校にては同二十七日午後二時より夫々卒業證書授與式を擧行し尙高等小學校及幼稚園は來る[illegible]日午前十一時[illegible]二尋常高等小學校は同九日午前十時第一尋[illegible]を擧行すべしと云ふ

●郡守の資格審査

[illegible]き過般來各道觀察使より推薦したる郡守の[illegible]

●警察官の移動

昨日附を以て左の通り警察官の異動發表せられたり

命鏡城警察署兼咸北警察部勤務　警部　平野源之助

命楚山警察署勤務　警部　秋吉榮

命慶南警察部勤務　同　廣岡丑

命晉州警察署兼慶南警察部勤務　同　岡清三郎

命平壤警察署勤務　警部　山本傳五郎

命忠北同　同　中島昇

補寧邊同　同　篠田治

命慶北同　同　竹內喜一郎

命大邱同　同　天野章四郎

命仁川同　同　岡本玄之吉

命錦州同　同　金泰鎬

命大邱同　同　崔東燮

命榮川同　同　洪昌燮

命慶州同　同　元般常

……午後十時より同第二尋常高等小學校……同二十五日午後一時より同甲子紀念幼稚園には同二十六日午前十一時より、同第一尋常高等小學校は同十日午前十時各々始業式……二尋常高等小學校は同九日午前十時第一尋……學校及幼稚園は來る二十日午前十一時……

……き過般來各道觀察使より推薦したる郡守の資格を審査すべしと

京城居留民團公文

京城居留民團規則第四號

明治四十年京城居留民團規則第十號京城居留民團税則第二條乃至第五條各別表ヲ左記之通改正明治四十二年四月一日ヨリ施行ノ件居留民會ノ決議ヲ經理事官ノ認可ヲ得タリ

明治四十二年三月二十一日　京城居留民團民長　熊谷賴太郎

第四號表　雜種税

一　料理店、待合茶屋、芝居茶屋、飲食店、

		年税
特別一等		金二百圓
同二等		金百五十圓
同三等		金百圓
同四等		金七十五圓
一等		金五十圓
二等		金三十五圓
三等		金二十五圓
四等		金十五圓
五等		金十圓
六等		金五圓
十七	仲居(旅人宿ニ於テ客ノ接待ニ從事スル者ヲ含ム)	一人ニ付月税金一圓
十七ノ二	酌婦	一人ニ付月税金二圓
十九	遊藝師匠	一人ニ付月税金二圓
二十	遊藝稼人(招ニ應スル者)	一人ニ付月税金一圓五十錢
	自ラ興行場ニ於テナスモノ及演劇興行ニ隨從スルモノ	一人ニ付日税一等 金二十錢 二等 金十錢
二十二ノ二	寄席	一箇所ニ付日税金七十五錢
二十四	相撲	一等一人ニ付金二十錢 二等一人ニ付金十錢
二十五	俳優	一等一人ニ付金二十錢 二等一人ニ付金十錢

課目		季税
二十七	季節ニ應シ營業ヲ爲ス者(淸涼飲料水、心太、ビール店)	
	一等	金十五圓
	二等	金十圓
	三等	金七圓六十錢
	四等	金五圓
	五等	金三圓

雜報

●走馬燈の夫婦(三)

▲初めは橫濱▲中は樺太▲終りは朝鮮▲女房は女郎上り▲夫は在鄕軍人▼

異域に在つて而かも零落の極に達せる勝善は同鄕の知己に逢ひ、事情に依れば相當の救助をも爲さんとの親切なる言葉に過ぎにし已が**夢物語**を事細かに爲しければ某等夫婦は事の外氣の毒に思ひ良き仕事の見付かる迄は何の遠慮も無き程に不自由を忍んで吾家に來るべしとの管ならぬ情けに二人は嬉れし涙を諸共に太平町邊の某の家にぞ移りけり、然るに前回にも記したる如く、マリヤは元來**娼妓上りの淫婦**なれば役人の家庭抔にはとても永く同居の出來様ふ筈なく十日餘りを經過するや又もや酌婦稼ぎの志願を爲すにぞ某も止むなく確實な處を撰んで周旋すべしと暫くの間を押鎭め、心當りを訪ぬる内**壽町**三丁目の元田中館と云へる下宿屋跡に當時某々二人の**奧さん**連が**內職**に料理屋を開始し居たれば是れ幸ひと橋渡しして首尾よく此家へ住み込ましめ、さて勝善を何時迄居食にする譯にもならずとて報知新聞支局の**配達夫**に雇はれ玆に衣食の道を求めて一先づ落着せしも氣盡ものゝマリヤは一週間と經たぬ間にハヤ雇主と衝突しオメ〳〵某の家に立歸り又もや平氣で居候となり澄ましたるが如何に厚顏しき夫婦の者も氣の毒や思ひしか將た又窮屈を感せしか今度は報知新聞支局の一室を借り受けてヤツトの事に引越したり二人の仕末を附けた某等夫婦は先づ一安心と思ふ間もなくマリヤ夫婦は又もや報知支局の誰彼れと衝突して**放逐**を食ひしかば厚顏しくも**三度**び某の家へ歸り來り凡そ一週間も同居せしが飽迄尻の落着かぬマリヤは、某に向ひ自分は曾て東京**淑德女學校**にありて裁縫の稽古を爲したれば一戶を構へて其れに移り仕立物の受合ひにても致したしとの**殊勝**なる願ひに、然らばとて某は明治町三丁目憲兵隊宿舍内なる濕突一室を借り受け家賃から世帶道具及び當座の食料迄を償ひ與へて引越しめたるが、一週間も經過せずして又々是處を引拂ひ玆に**四度**び某の家へ逆戾りたるぞ不埒なれ(未完)

●料理屋連の集會

▲檢番設置問題に關して

京城に藝妓檢番設置の說ある事は屢々報道したる處なるが、右に關し花月、淸華、掬翠、井門等の所謂大料理店は大料理店のみにて一檢番を設立し他の小料理店向きは別個に設置せしめんとの意見なるも斯くては經費嵩みて堪へ得べくも非らずとて一部の反對起り居る由なるが昨日は市内全部の料理店主本町六丁目有明樓に集會し是れが設置如何に關する協議を爲したりと

●尹貞媛女史の歸京

▲日本に留學すること十三年

十三歲の幼齡を以て時の京城領事秋月氏夫妻に携へられ東都の學舍に遊ぶこと玆に十有三年今や業成りて官立漢城高等女學校敎授(奏任四等)に聘せられたる安平貞事尹貞媛女史は愈々明二十日午前大邱を發し午後二時十四分南大門發の列車にて歸京すべし

●兄弟の共匿れ

福岡縣猪仕金村大字住登平田直藏(二十)と云へるは去る二月廿六日親父の貯蓄金を窃かに引出して渡韓し當地大和町三丁目硝子製造商原口方に傭はれ居たるが同人は軍籍にありて來る四月一日演習召集にて小倉聯隊へ入營の令狀さへ受け居るに渡韓後鄕里に向ふては何等の音沙汰さへ爲さゞるにぞ一家の心痛一方ならず遂に去る五日同人の實弟周造をして引連の爲め渡韓せしめしに是又何れへか姿を隱し更に音信なきより兩親は愈々以て打驚き昨日南部署へ向け保護願を差出し當父某は遙々當地に向つて發足せしと兄弟ながら揃ひも揃つた不孝者と云ふべし

●梅の落花(新町遊廓の入院女郎)

魚遊痴史

▲南山樓・初音
初音優さしいアノ黃鳥も
將來は梅ゆへ身を果す

▲同樓・三ツ咲
色で苦勞をする三ツ咲の
花も萎ほれた昨日今日

▲京城樓・濱子
深く濱千が拔きしならぬ
何んど汐干の帆立て貝

▲月下樓・喜蝶
花に喜蝶の溺たゝる露を
飽ず吸ふたかれ身の毒

▲第一樓・紅梅
色で好かるゝアノ紅梅の
花をなやます春のあめ

▲同樓・春香
頭痛膏ならば春香のすがた
眠さへ霞の引き籠もり

▲若春樓・都
夢の都の戀しい好郎に
知ちや恥かし今の身は

▲同樓・白玉
夜光の白玉光りが失せた
大事な寶物に疵が付き

●陰莖の皮を剝く

京城北署安洞統戶不詳朴錫乙(十五)と云へる韓童は一昨日午後當地長谷川町一丁目四十二番戶八野與三郎長男登司男(六)が路傍に遊戲し居たるを戲れに登司男の陰莖の表皮を引剝きたる爲め痛みを生じ小便不通となりたる旨父與三郎より南部署に訴へ出でたりと

●當地の天理敎

に就ては曩に連日記載する所ありしが今當地壽町なる同敎會の模樣を聞くに統監府より設置認可後約二ケ月位なるに信徒續々增加し中には立派な紳士淑女抔も來りて盛んに助け玉への御利益を聽聞し居れる由

●京城座の開演

本町八丁目京城座に於ては今般大阪より梅花美團と稱する新派演劇團を迎へ來る廿三日頃より花々しく開演する由なるが木戶場代共上下の區別なく二十錢均一とし午後六時迄の入場者は特に十五錢に割引すると云へば定めて大入好評を博するなるべし

●基督靑年の懇話會

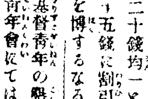
當地旭町四丁目基督靑年會にては昨日午後七時より懇話會を催したりと云ふ

●卷のくさ〳〵

一昨日午後八時三十分頃當地大和町一丁目にて尹用孝(九つ)と云へる一人の韓童彷彿ひ居たるを南部署に於て保護す▲本町江里口商店店頭に去る十八日革製財布を絹布に包み中には一圓紙幣及び銀銅貨取交せ一圓三十四錢合計二圓三十四錢ありたるを遺留し有りたりとて同店員濱崎より其筋に屆出づ

どうめがね

▼東京から華嚴や淺間へ行くは大分遠いと見へて淺草の陵雲閣から飛んで自殺する新案出來て以來同閣では特に番人を置いて一人客の登樓に限り尾行せしめしに去る十五日雜踏にまぎれて上りたる妙齡の一美人五階目より飛んで往生す此女は麻布區三河台町稻垣又吉の養女まさとて十六歲の美人原因は養家より離籍されたる口惜しさに無分別の自殺なりとは可愛らうなり▼玄治店と云へば富與三郎も偲ばるゝが去る十六日同地の藝妓糯子を肉切庖丁で切附無理情死を計りしは淺香繁明と云ふ男▼神戶中檢の藝妓二十名一團となり七十日の豫定にて渡來し日本舞踊の興行をなす筈給金は旅費を別として四週間三萬圓なり▼美人を殺害して行李詰となし水中に投じて犯跡を暗ましたる犯人逮捕さる此男は東京日本橋本小田原町洋服裁縫藤村久太郎▼車掌の不注意より進行中の列車より轉落して脊負ひし三歲の幼兒を即死せしめたる婦人は宮城縣本吉郡仙沼町小林鹿野(二十八)▼基督敎信者三上館雄(二十)と云へる馬鹿者は厭世の結果去る十四日の夜同地基督敎會堂に於て劇藥を吞みて自殺を遂げたりと



◀平民文庫▶

▲龍山印刷局に淸水と云ふ監督が入つたがこれは本木昌造の直弟子だとて威張つて居るが偉い人の弟子は必ず者偉ひものぢやない邪翁の弟子でも黃金ぢやない僕のだつて然うである(馬鹿駄郎)▲その淸水と云ふ奴はモウ罷める相だ能めさせなければならぬ樣な先があるのだ先方から諭示を喰はぬ內に引退つた方が善いせ(同上)▲食慶編高兩子の議を見て「蛤が吐き出したる怪氣焰潮の如く寄せつ返へしつ」(魚)▲平民文庫の反は恐しいものだ僕が先日投書した事が直に其筋の注意を喚起して近頃活動し始めたのは大に快心の次第だ(太平洞八)▲目下京城に無職にて遊ぶ者數百人然るに貴社の料紹介は右の者に幾多利益を與ふ深く貴社の義俠を喜ぶ(エー、エス生)▲官界の進只一言にして盡す曰く一引き、二金、三智惠、四學問か(エンサイクロペヂヤ)▲首相に狂句を呈す「離間用捏造說を言ひ布らし」段なり「狸慣用辭表出した丈けの」……

▲桃山……用已が乾兒を扶殖して(うろ子)▲……廓の樓名を御承知の粹樣は至欄まで御知らせを乞ふ少々必要の事があるのですから(ぎの字)▲此頃は大分暖く成つたがウゾこれで暖くなるだらうか(遊太郎)▲櫻井町の○○寒いも彼岸までだ(小僧)▲……店の主八君は未だ若くもあるが近頃惡所ひを始めた樣ですね內儀さんか大變心配すよ(隣の犬)▲僕は惡筆で困るが良くす法は無いだらうか(惡筆家)▲有ります稽古をなさい(係り)▲大變ビユーチの妻君がもらひたいが一人でよひが居んだらうか(二八狂)▲一人でよいとは何んのこと、二人しいと何故云はぬ(小僧)▲イヤ十二日の惡ひことにはトント困りました(通行人)▲本町の○○紙店の娘さんは一寸べつぴんだね(見た八)▲ならば何うする(給仕)▲話燒生の云ふ通り彼の看板は早く取つたがよい僕は先にも彼の看板を見る度に厭だと思つて金を少し待つて行つたら不足だつた(馬鹿者)▲長谷川町及び太平町の邊は淫賣婦の巢だねうるさくつて仕方が無い諸君此の平民文庫をドシ〳〵んにしようではないか(愛讀生)

●韓語獨習

日本語	韓語
此の、湯は、あついか	イ、ムルン、ツーゴウニヤ
まだ、沸て御座いません	アヂツク、クールチ、アニハイヨツスムニダ
彼の水は冷くわります	チヨムルン、チヤムニツカ
火鉢がわります	ホワーロカ、イツソ、
火を(へ(に))わたられよ	ブルチエーイシヨ

●天氣豫報(自二十日午後六時至廿一日午後六時)

西の風晴後曇

廣　告

られたり

命鏡城警察署兼咸北警察部勤務　警部　平野源之助

補鏡城警察署北靑分署長　警部　高杉權藏

命慶尙南道警察署兼慶南警察部勤務　警部　山本……

命十城警察署勤務　同　陳……

命忠南同　同　淸宮……

命大邱同　同

命大邱同　命仁川同　補安東同　天野章四郎　岡本友之吉　佐々木寅造　山本……

命慶州同　同　元……

▲無料紹介欄▼

人事部

用達業に多年經驗を有す給料望まず雇はれたし 姓名在社（一八五）

求職業 友人歳二十才普通教育あり從來外國商館に勤め商店及會社事務員に雇われたし但會話に心得あり 社內河村（一八六）

でっち入用 十八歳以下にして身元保證人ある者 龍山元町三ノ二四三日韓組白米小賣店（一八三）

エムエム生に告ぐ匿名にては御要求に應じ難し（係）

被雇たし 裁縫の心得あり年二十七の女至急被雇たし 姓名在社（一一九）

夜間雇はれたし但し午後七時半頃より新聞配達及び如何なる勞働にても差支なし 大平町郵便受取所左込横入 前田（一九三）

歳廿才身体健全高等小學卒業身元保證人あり職業不選至急雇れたし 姓名在社（一九四）

求職 英韓語及簿記に熟達す會社官廳事務に經驗あり身元確實 新橋通一の一沖方 伊藤睦治

物件部

旭町一丁目山の手にて風景絶佳の土地建物付にて讓り度し 姓名在社（一七五）

惠致院近傍にて田畑二十余町歩納家二棟農具各種小作又は讓渡しの相談に應ず 姓名在社（一七七）

貸家 京城[illegible]町[illegible]丁目[illegible]（一七八）

明治町角藤田合名會社貸家係（電話二三〇）

貸地 龍山青坡奨（彈樂庫横）千五百坪便利貸附仕候風景絶佳住宅向 京城北米倉町一丁目 多田質店（一八〇）

貸家 若草町一温突三間半疊敷六間外に炊事場押込建具付にて極めて閑靜家賃十三圓 若草町一の一元矢島（一九一）

呼よき電話讓渡たし 社內中村

京城龍山 **電話**かしたし 氏名在社（一九六）

貸地 旭町一丁目見晴よき地四十坪あり 京城清國領事館通 清韓洋行

廣告









●新聞料 一枚金二錢 一ヶ月前金卅五錢 三ヶ月前金[illegible] 六ヶ月前金貳圓 郵稅一ヶ月金[illegible]
●廣告料 五號活字十九字詰一行一回四十錢 廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番